

## 豊洲移転中止署名をすすめる会のQ & A

Q 東京都の専門家会議が「豊洲は安全」と言っているとの報道がありますが、本当でしょうか

A 専門家会議の平田座長が豊洲の「地上部は安全」と述べた言葉だけが切り取られて報道され、「安全」かのように宣伝されていますが、それは間違いです。この専門家会議でも「将来想定されるリスク(危険性)」として「気化した水銀、ベンゼン、シアン化合物が発生」「1階部分へ…侵入・拡散が発生する」(3月19日専門家会議「資料7-5」)と報告し、対策を検討することになっています。実際に地下水再調査(27地点)では、環境基準値100倍のベンゼンや、検出されてはいけないシアン化合物が17ヵ所で見つかりました。これは土壌に高濃度の汚染が残っていることによるものです。高濃度の土壌汚染の土地に、築地市場を移転させるわけにはいきません。

Q 地下水から汚染が出て、飲んだり、使ったりするわけでないので大丈夫と言われましたが

A 地下水調査は、飲むための調査でなく、土壌汚染が取り除かれたかどうかをチェックするためにおこなったものです。地下水から高濃度で検出されたベンゼンやシアン化合物は、豊洲で操業していた東京ガスの石炭ガス工場が残したコールタールなどの成分です。ベンゼンには発がん性があり、シアン化合物は猛毒です。豊洲予定地の土壌にはこれらの高濃度の有害物質が残っていて、その危険性は深刻です。

Q 自民党は「豊洲予定地はコンクリートで覆っているから大丈夫」と言っていますが

A 東京都は豊洲予定地全域を盛り土すると約束しましたが、豊洲の市場施設の下は盛り土されてなく約束は果たされませんでした。この施設の地下の底はコンクリート工事されておらず、簡易コンクリートが敷かれただけ、一部は碎石がむき出しになっていて汚染された地下水が入りこんで溜まり水となり、有害物質が気化し空気中に広がっていました。今後も地下に汚染地下水が入りこみ有害物質が気化し、移転した市場内に入り生鮮食品に付着する危険性があります。

Q 豊洲も築地も湾岸地区ですが、大地震で大丈夫でしょうか

A 今後30年に70%の確率で首都巨大地震が想定されています。豊洲は関東大震災以後に東京湾のしゅんせつ土で埋め立てられた土地で軟弱地盤です。東日本大震災の時には、豊洲予定地では地盤の液状化と噴砂が108ヵ所で確認されています。それに対して築地市場の土地は東日本大震災では液状化、噴砂は起きませんでした。高濃度の汚染土壌の残る豊洲予定地では、大地震によって液状化、噴砂がおされば有害物質が噴出します。そうなれば生鮮食品に多大な影響を与え、市場の存続を揺るがしかねない重大な問題になります。そんな場所に、都民の台所を移転させるわけにはいきません。

Q もう豊洲新市場に 6000 億円もかけたのだから、ムダになるのではないか。安全対策をして使えるようにならないのでしょうか

A 豊洲新市場は土地の購入で 1859 億円、土壌汚染対策費 860 億円、施設建設費で 2744 億円の費用がかかっています。しかし、建物が完成したからといって高濃度の汚染土壌が残り、都民の食の安全、安心が確保されてない所に築地市場を移転させてよいのでしょうか。

東京では市場が取り扱う生鮮水産品の9割以上が築地市場によるものです。まさに築地市場の安全は都民の食の安全、安心に直結する問題です。都民のいのちと安全は、お金と引

き換えにすることはできないのではないのでしょうか。

豊洲新市場は、汚染土壌を残したまま施設を建設してしまいました。現状で施設下にある高濃度の汚染土壌を取り除くことはできません。汚染対策を完全に完了させるには、建物の一部もしくは全部の建て替えが必要です。築地市場の再整備と併せて豊洲の再利用、再開発の様々な提案がだされていますが、これらを検討することが現実的ではないのでしょうか。

Q 築地市場も汚染が出ているといいますが、どうなのでしょう

A 築地市場で検出された有害物質はヒ素(基準の 2.4 倍)とフッ化物(同 1.6 倍)で工場跡地の汚染とは違います。しかも場所は敷地南端、市場施設から離れた所です。この土地は昭和初期に埋め立てたもので、市場施設ある築地本体の土地(江戸時代に埋め立て)とまったく

違う土壌です。豊洲の汚染は、石炭ガス工場による工場汚染、市場予定地の全域に広がっており、築地とは比べられないほどの深刻です。今、東京都は築地市場の土地の土壌調査を予定していますので、それを踏まえて対策をすれば安全、安心は確保できます。

Q 中央卸売市場は国の認可と聞いていますが、政府は豊洲移転についてどう考えているのですか

A 中央市場は開設が東京都ですが、それを認可するのは国です。認可を担当する農水省は、吉良よし子参議院議員の質問に「東京都が汚染の除去の措置を行わず、盛土等のみを行った状態で卸売市場の用地とすることについて

想定しえない」(山本有二農水大臣、4月10日参院決算委員会)と答えています。高濃度の汚染土壌が残っている豊洲に築地市場が移転できないことは、国も認めざるをえません。

Q 築地市場の再整備は、以前に計画して頓挫したから無理だと聞きましたが

A 築地市場の再整備が計画されたのは 20 年以上前です。当時と状況は違っています。築地市場の取扱量は、鮮魚類は大きな変化がありませんが、水産加工品と冷凍品が4割近く落ち込んでいます。こうした取引の変化に合わせた再整備計画を検討していくことが必要で

す。いま東京都のプロジェクトチームが再整備計画(734 億円)を提示していますが、こうした案も含めて築地市場の業界、業者と協議を積み重ね、合意形成をはかることが大事でないのでしょうか。

Q 築地市場の業者の皆さんは豊洲移転についてどう考えていますか

A 築地市場の業者の多くは「東京都は汚染をすべて除去すると約束したではないか、約束違反だ」「汚染が残っている豊洲には行けない」という思いです。築地の水産仲卸の業者組合の理事長は豊洲移転の選択肢はないという立場です。築地女将さんの会が中心にな

って7割の水産仲卸業者から移転反対署名を集めています。また青果の2団体も安全、安心が担保されない限り移転できないと言っています。築地市場の再整備案が出され、多くの業者から歓迎の声が広がっています。

Q 築地市場は消費者にとってどういう役割を果たしているのでしょうか

A 卸売市場は、おもに卸、仲卸、買参人で構成されます。生産者から運び込まれた生鮮水産品を、その値打ちに応じて価格付けされ、安全・安心なものを適正価格で消費者に届けるためのシステムが卸売市場です。そこで働く市場関係者がその仕事を担っています。それがいわゆる「築地ブランド」の魚として流通し、日本の食文化を発信しています。築地市場は

世界からも注目され、外国人観光客も大勢きています。この築地市場関係者が「汚染の危険のある魚は売れない」と訴えているのですから、豊洲には将来がありません。築地市場の再整備で、市場に働く業者、関係者の要望に応じてこそ、築地市場の将来が開かれると思います。